

はじめに

令和元年10月、公募を含め学識経験者、地域代表、子育て世代、企業関係、学生、まちづくり関係、福祉関係、教育関係等15人の委員からなる「松江市における図書館のあり方検討委員会」が設置されました。中央図書館が築後33年経過し、改修・移転等検討・判断する時期にきていること、現在の市立図書館には解決すべきいくつかの課題があること、近年、市民ニーズの多様化により、従来の図書館とは異なった多様な機能を持つ図書館が全国各地にできている中、松江市の図書館サービスをより市民ニーズにあったものにする、これらにより、幅広い層の市民の皆さんから意見を聞くことを目的としたものです。検討にあたっては、次の6つの論点が設けられ、それぞれについて委員の皆さんから多くの貴重な意見が出ました。

検討にあたっての論点

- ① 現在の松江市立図書館に対する市民の思い（イメージや印象）
- ② 市民が利用しやすい図書館とは（市民にとっての身近な図書館とは）
- ③ これからの図書館に求められる機能とは
- ④ 子どもたちにとっての図書館とは
- ⑤ 文化の発信に関して図書館ができることとは
- ⑥ 県立図書館との役割分担をどうするか

検討委員会が出た意見について、本報告書のとおりまとめましたので、松江市においては、現在の図書館サービスの改善に役立ててもらうとともに、今後のまちづくりにつなげていただけるよう期待しています。

令和2年7月

松江市における図書館のあり方検討委員会
委員長 石井 大輔